2026年12月期第3四半期
決算説明資料

日本ホスピスホールディングス株式会社

(証券コード：7061)

© Japan Hospice Holdings Inc. All rights reserved.

2026年12月期第3四半期決算ハイライト

① 2026年診療報酬改定の影響 ･･･P2、P3

② 2026年6月から2026年9月にかけての動き ･･･P2、P4

③ 黒字化へのロードマップの進捗状況 ･･･P5

④ 稼働の状況と営業諸施策 ･･･P6、P7

連結売上高

10,712百万円

前年同期比 ＋3.4%

連結EBITDA

842百万円

前年同期比 △34.9%

連結経常利益

△23百万円

前年同期　511百万円

© Japan Hospice Holdings Inc. All rights reserved.

2026年12月期第3四半期TOPICS

第3四半期における現状

【経常利益率の推移】

2026年5月	10.0%
▼	▼
2026年6月	△9.2%
▼	▼
2026年9月	△12.6%

一時的な構造赤字

5月から6月にかけての変化及び第3四半期の赤字は、ホスピス業界の健全化※を先導したことによるもの

※ここ数年間は、医療保険で相当の収益を得る事を前提とし極端に安い入居費用を設定する事業者が多く、住宅家賃等（保険外収入）の下落が続いていた。極端な逆ザヤになっていた（本来はご入居者にご負担いただく）住宅家賃等を、適正な価格帯に戻し、持続可能なモデルを構築する。

6月～9月の利益率変動の要因

【月末時点の入居者数】

2026年6月末	1,393名
▼	▼
2026年9月末	1,231名

売上単価の改善

黒字化への4つの施策が堅調に進捗

稼働の低下

競合他社との値上げ時期のズレにより一時的に価格競争力が低下し、あわせて6月から改定された療担規則※に準拠して、従来形態での入居者紹介会社の活用を一旦保留（停止）したため

※保険医療機関及び保険医療養担当規則

回復の兆候

価格競争力の回復

10月より競合大手が住宅賃料をUPした結果、当社の価格競争力も回復
➔業界は健全化に向かっている

企画・戦略部門の強化と体制強化により稼働反転

10月末時点の稼働数は9月末時点と比較し＋30名
➔稼働数は回復中

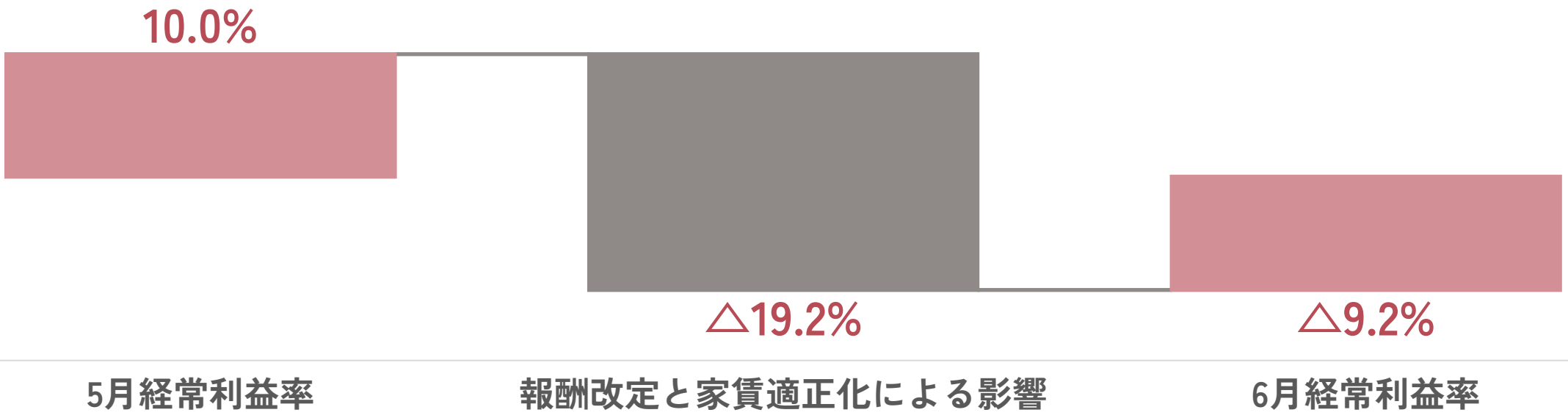
収益力の回復

1名当たりの売上単価は改善

当面は、歪な市場であった「ホスピス住宅」事業が正常化するための過渡期

© Japan Hospice Holdings Inc. All rights reserved.

診療報酬改定の影響（改定前：5月→改定後：6月）



◆ **医療保険収入の下落**：入居者一人あたり、約20万円/月のマイナス

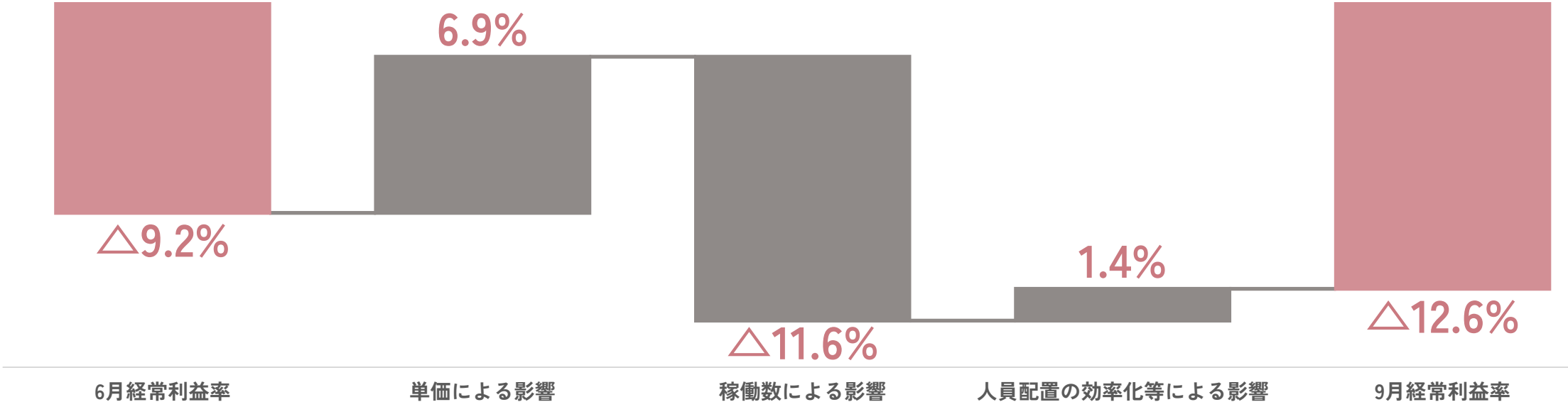
①制度変更による下落　：「包括型訪問看護療養費」へ切り替え
②報酬区分を理由とする下落　：訪問時間によって生産性が大きく変わる報酬体系になった

◆ **稼働数の減少**：5月ピーク時に比べ、6月末までに100名以上のマイナス

①住宅家賃等の値上げによる一時的な競争力低下
②競合他社の値上げはこれから
ここ数年、歪な価格体系であった住宅家賃等を、業界が健全だった頃の価格水準に戻す

© Japan Hospice Holdings Inc. All rights reserved.

6月から9月にかけての経常利益率の変動



①住宅家賃等の適正化
②訪問看護(医療保険)の生産性改善
③より高い付加価値の提供

先行値上げによる価格競争力の低下と稼働減少

- 稼働数の減少による影響（△11.6%）が損益を圧迫しているものの
- 報酬改定により低下した利用者1名当たりの売上単価は改善（+6.9%）
- 報酬改定に合わせた人員配置への本格的な移行はこれから（+1.4%）

© Japan Hospice Holdings Inc. All rights reserved.

第2四半期で掲げた黒字化へのロードマップの進捗状況

黒字化へのロードマップの4施策については、それぞれ進捗中

① 住宅家賃等の適正化

極端な逆ザヤになっていた住宅家賃等を、ホスピス市場が健全だった頃の価格水準に戻す **（要する期間：半年）**



② 訪問看護(医療保険)の生産性改善

ライン稼働率の適正化による売上単価UP **（要する期間：1年）**



③ より高い付加価値の提供

らいふプラン費（入居時20万円）の全利用者から徴収 **（要する期間：2年）**



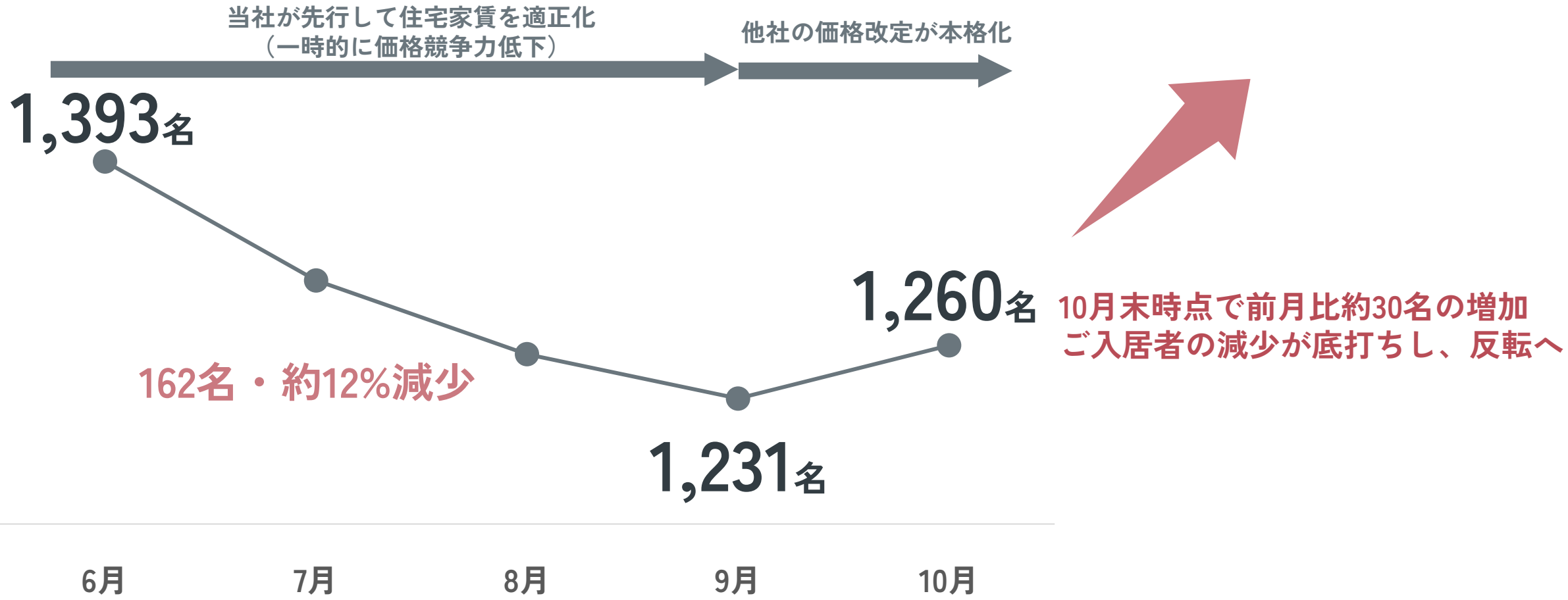
④ 人員配置に対する実稼働率の回復

人員配置に対する実稼働数の割合は、（稼働が下がり社員数も減った結果）目標数値の95%を回復しました。一方で、稼働数が減少すると利益率は下がる事業構造であり（固定費の存在）、損益や利益率に与える影響という観点からは、人員配置に対する実稼働率の回復が稼働数の減少によるマイナス影響にかき消されてしまうため、進捗指標からは除外しております。

© Japan Hospice Holdings Inc. All rights reserved.

稼働の状況

他社の住宅家賃等の値上げも遅れており、そのような環境の中でご入居者を増やす事は難しかったものの、それでも愚直に営業諸施策(P7)を実行し、加えて、10月からは大手競合が値上げに追随した結果、ようやく9月で稼働が底打ちし、10月から反転へ



© Japan Hospice Holdings Inc. All rights reserved.

稼働の回復を目的とした営業諸施策と損益分岐点入居率

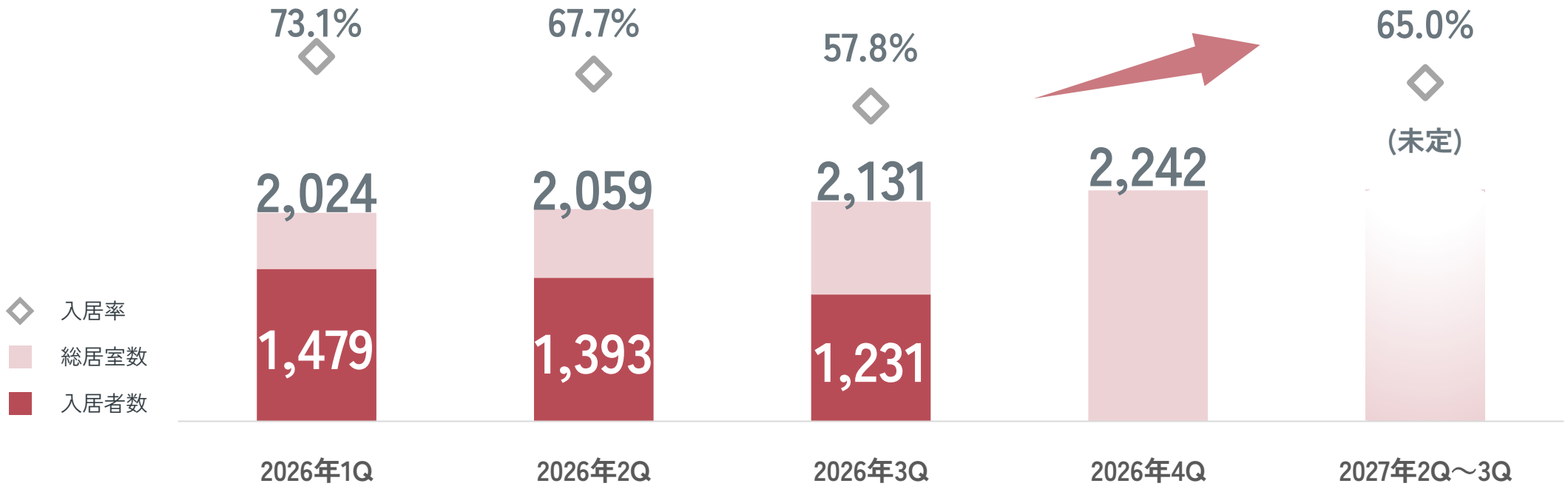
来期施設計画(＝総居室数)が未定のため、2027年12月期の特定時点における目標入居者数は明示できませんが、売上単価施策(P5)の2027年12月期の進捗予定を加味した**損益分岐入居率は約65%（本社本部経費含む）**です。
入居率65%を来期2Q～3Qに達成することを経営目標とし、7月から現在にかけて、以下の営業施策を実行。

企画・戦略部隊の強化

- 営業企画、戦略部隊の充実とデータ分析部署の発足
- アライアンス推進とWEB（販促）チャネルの多角化
- 医療分野に強みを持つコンサルタントの活用

実行部隊の強化

- 報酬改定後の新価格帯に対応した営業手法の強化と標準化
- リーダー育成（スペシャリスト登用による実行部隊の強化）
- ハンズオン形式の営業支援（外部委託）



© Japan Hospice Holdings Inc. All rights reserved.

2026年12月期第3四半期連結業績

（単位：百万円）

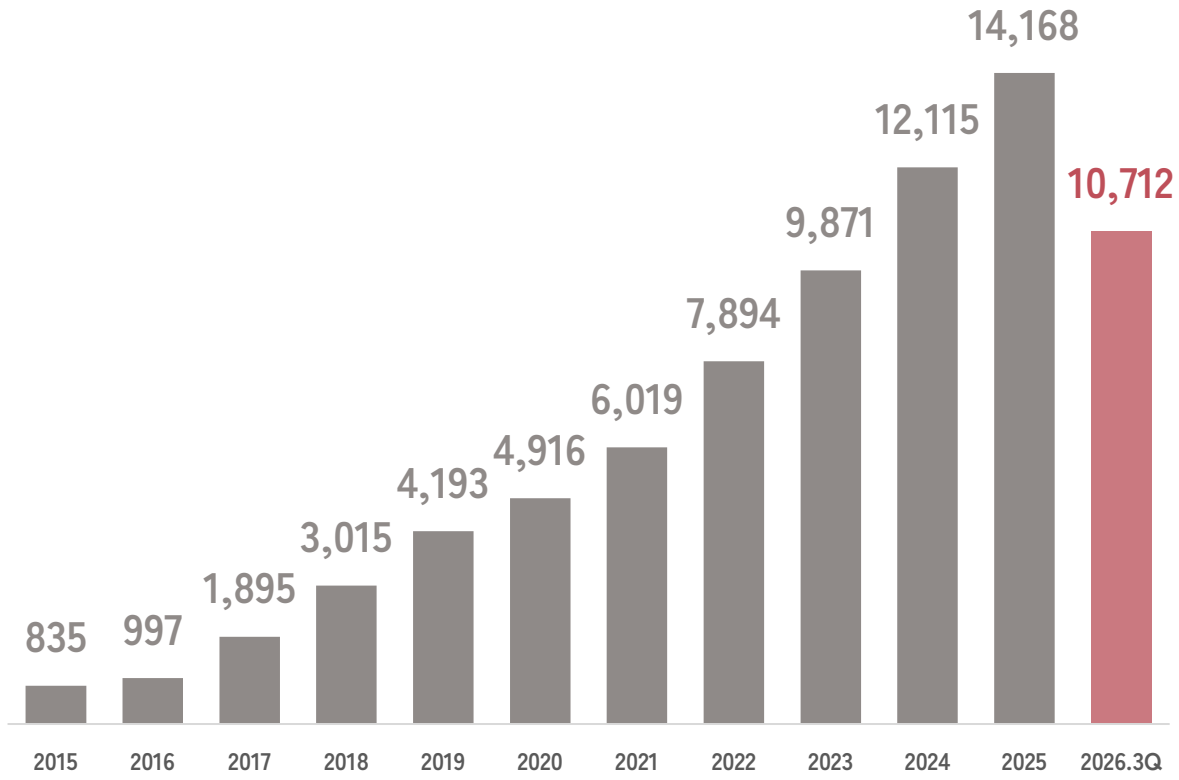
	2024年12月期 第3四半期	2025年12月期 第3四半期	**2026年12月期 第3四半期**	対前年同期 増減額	対前年同期 増減率（%）
売上高	8,874	10,361	**10,712**	＋350	3.4
EBITDA	1,414	1,294	**842**	△451	△34.9
営業利益	944	700	**349**	△351	△50.2
経常利益	708	511	**△23**	△535	―
親会社株主に帰属する四半期純利益	437	304	**△75**	△379	―
１株当たり四半期純利益（円）	53.40	36.23	**△8.91**	―	―
１株当たり年間配当（円）	15.00	25.00	**（未定）**	―	―

© Japan Hospice Holdings Inc. All rights reserved.

経営指標の推移

連結売上高の推移

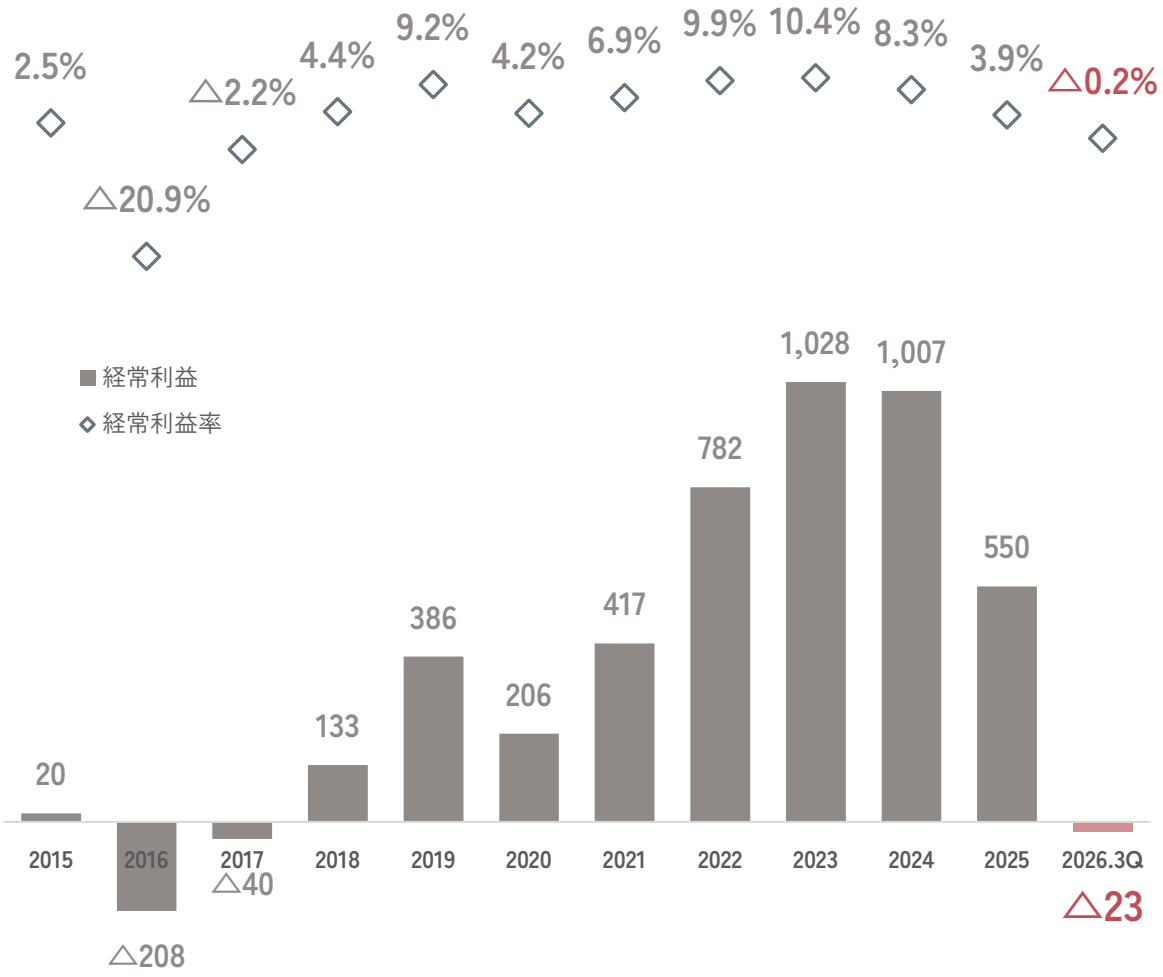
(単位：百万円)



※2026年12月期連結業績予想については、診療報酬制度改定等の影響を受け、現時点では適切に算定することが困難であると判断し、取り下げております。

連結経常利益 及び 連結経常利益率の推移

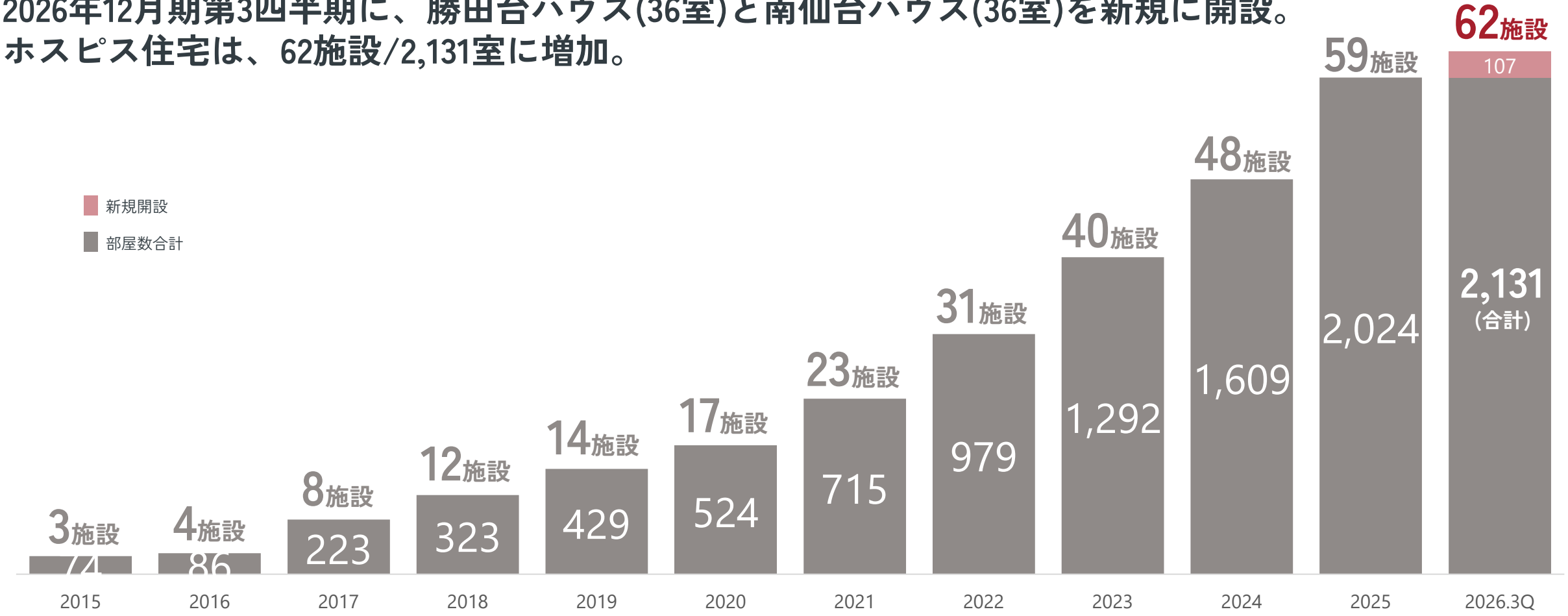
(単位：百万円)



© Japan Hospice Holdings Inc. All rights reserved.

施設数・部屋数・平均入居率の推移

2026年12月期第3四半期に、勝田台ハウス(36室)と南仙台ハウス(36室)を新規に開設。
ホスピス住宅は、62施設/2,131室に増加。



【平均入居率※の推移】　※ 平均入居率 ＝ 延べ入居室数 ÷ (提供可能室数 × 日数)

既存施設・・・開設後1年（12か月）超経過した施設	:	82.0%(通期)	79.7%(通期)	79.2%(通期)	77.8%(通期)	74.2%(3Q)
新規施設・・・開設後1年（12か月）以内の施設	:	41.2%(通期)	37.3%(通期)	43.1%(通期)	49.8%(通期)	43.9%(3Q)

© Japan Hospice Holdings Inc. All rights reserved.

バランスシートの状況

（単位：百万円）

	2025年12月期	2026年12月期 第3四半期	増減額	増減の主な理由
流動資産	4,552	**3,887**	△664	
現預金	2,013	**1,602**	△410	2025年12月期に関する期末配当の実施等による減少
売掛金	2,284	**1,935**	△349	報酬改定による売上減による減少
固定資産	14,372	**14,575**	＋202	
建物及び構築物	3,960	**3,583**	△377	建物のセール＆リースバックによる減少
リース資産	9,111	**9,645**	＋534	建物のセール＆リースバックによる増加
資産合計	18,924	**18,462**	△462	
流動負債	3,406	**2,774**	△631	
短期借入金	600	**584**	△16	建物のセール＆リースバックに伴う借入金の返済
未払費用	1,002	**844**	△157	
固定負債	11,840	**12,268**	＋427	
長期借入金	3,250	**3,289**	＋39	
リース債務	8,257	**8,619**	＋361	建物のセール＆リースバックによる増加
負債合計	15,246	**15,042**	△203	
純資産	3,677	**3,419**	△258	
負債・純資産合計	18,924	**18,462**	△462	
自己資本比率	19.4%	**18.5%**	―	

© Japan Hospice Holdings Inc. All rights reserved.

2026年新規開設スケジュール

（2026年11月13日現在）

年度	名称	所在地	2025年12月期				2026年12月期			
			1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
2025年	ファミリー・ホスピス日吉本町ハウス	横浜市港北区	38室	スギホールディングスとの共同開発						
	ファミリー・ホスピス上石神井ハウス	東京都練馬区	37室							
	ファミリー・ホスピス月寒東ハウス	札幌市豊平区	36室							
	ファミリー・ホスピス新柏ハウス	千葉県柏市		36室						
	ファミリー・ホスピス西葛西ハウス	東京都江戸川区		43室						
	ファミリー・ホスピス船橋ハウス	千葉県船橋市			38室	スギホールディングスとの共同開発				
	ファミリー・ホスピスOASIS桜山	名古屋市瑞穂区			36室					
	ファミリー・ホスピス神戸東灘ハウス	神戸市東灘区				35室				
	ファミリー・ホスピス大宮ハウス	さいたま市中央区				44室				
	ファミリー・ホスピス富士見ハウス	埼玉県富士見市				36室	スギホールディングスとの共同開発			
	ファミリー・ホスピス札幌南ハウス	札幌市南区				36室				
						59施設 2,024室				
2026年	ファミリー・ホスピス七里ハウス	さいたま市見沼区						35室		
	ファミリー・ホスピス勝田台ハウス	千葉県八千代市							36室	
	ファミリー・ホスピス南仙台ハウス	仙台市太白区						東北エリア初出店	36室	
	ファミリー・ホスピス西公園ハウス	福岡市中央区							九州エリア初出店	36室
	ファミリー・ホスピス北24条ハウス	札幌市北区								40室
	ファミリー・ホスピス東苗穂ハウス	札幌市東区								35室
	※ファミリー・ホスピス蓮田ハウスは、2027年春に開設予定					65施設 2,242室				

© Japan Hospice Holdings Inc. All rights reserved.

当社グループの強みと外部環境

当社グループの強み

業界を代表する看護師の存在を背景に置いた豊富な人材リソースと組織体系

- 専門看護師など上位資格者を含む優秀な看護師が多数在籍しており、緩和ケアの教育研修プログラムを社内外で実施するなど、教育・研修制度が充実
- 専門性が高く、医療依存度の高いご利用者を集めやすい

「おうち」で最期を迎えたいという入居者に寄り添った質の高いサービス

- ご利用者の尊厳と生活を守るため、居室内に必ず個室トイレを完備し、施設には多様な特殊浴槽を設置

施設展開が容易な事業モデル

- 賃貸借契約により出店時のCapexを最小化
施設開設（展開）が容易なモデル

ホスピス市場を取り巻く環境

高齢者の増加によるがん・難病患者の増加

- 死亡者に占めるがんの割合は約30%であり、がんの原因である細胞の劣化や遺伝子エラーは高齢に伴い増えてくるため、今後も需要は増加

受入先不足がさらに深刻化

- 入院期間の短期化や病床削減が進められる中、末期がんや難病患者等「医療依存度が高い患者」の受け皿となる施設が圧倒的に不足
- 自宅療養は家族負担が大きく医療サポートが脆弱なため、がん末期患者などの看取り期間中、安心して最期を迎えられる場所が不可欠

診療報酬の改定（2026年）

- 過度に収益を重視する事業者が、2026年の制度改定により淘汰されることで、ホスピス業界が健全化
- 在宅クリニックは重度患者へのシフトが求められているため、ホスピス事業者とクリニックとの連携が進み、在宅患者のホスピス住宅への紹介が増加

© Japan Hospice Holdings Inc. All rights reserved.

当社グループの特徴（他社との違い）

	当　社（生活の場としてのホスピス）	他　社（利益・効率性重視）
①建物・住環境（ハード面）	【住】20～40室前後の規模感 【住】ゆとりある居室面積 【住】全居室にトイレを設置 （利用者の尊厳と生活を考慮） 【食】施設に厨房を設け、調理師による調理 **➔入居者を第一に考えた生活の質へのこだわり**	・50～80室前後の大型施設 ・最低限の広さの居室 ・居室にトイレの設置なし（オムツ前提） （オムツだとサービス提供者の都合で交換に伺える） ・施設に厨房はなし
②緩和ケア品質（ソフト面）	【ケア】必要な緩和ケアに基づいた訪問 【人材】医療従事者の手厚い配置 【人材】専門看護師（全国に約3千人：看護師の0.1%）や認定看護師（全国に約2万人：看護師の1%）等の上位グレード資格者が多数在籍 【人材】リハビリ専門職の配置 **➔アセスメントに沿った緩和サービスを提供**	・2026年制度改定以前は、訪問回数や加算等で保険収入の最大化を図り、家賃等を安価に設定 ・効率性を重視した人員配置 ・上位グレード資格者は僅か ・リハビリ専門職の配置なし
②教育・研修体制	【教育】ELNEC-Jの積極的な開催 （緩和ケアの教育プログラム） 【研修】定期研修 （最新の緩和ケア事例の共有等） 【研修】スギ薬局による薬剤研修 （多様な医療用麻薬の説明等）	・開かれた研修会がない ・上位グレード資格者が少なく、大規模な緩和ケア学会等でスピーカーとして登壇するような看護師は殆どいない

当社の考えるホスピス＝「生活の場としてのホスピス」

© Japan Hospice Holdings Inc. All rights reserved.

会社概要

会社概要

社名	：	日本ホスピスホールディングス株式会社
本店所在地	：	東京都千代田区丸の内三丁目3番1号　新東京ビル4F
代表者	：	代表取締役CEO　高橋　正
資本金	：	492百万円（2026年9月末日時点）
グループ会社	：	ファミリー・ホスピス株式会社（東京都千代田区）

事業内容

ホスピス住宅事業



入居者を**末期がん患者**や**難病患者等**に限定したホスピス住宅にてケアサービスを提供しております。訪問看護と訪問介護事業所を併設又は近設しております。

訪問看護事業



看護師による訪問看護サービスを提供しています。在宅医と協力して、利用者やその家族の希望に沿い、安心して「おうち」で暮らし続けられる支援をしています。

在宅介護事業



訪問看護と併設することで医療的ケアに対応し、「通い」「泊り」「訪問」の３つのサービスを組み合せた包括的なケアを特長とするサービスを提供しております。

© Japan Hospice Holdings Inc. All rights reserved.

当社グループのホスピス住宅

【北海道】
- ファミリー・ホスピスノーザリー厚別西
- ファミリー・ホスピス白石ハウス
- ファミリー・ホスピス中島公園ハウス
- ファミリー・ホスピス北海道ボールパーク
- ファミリー・ホスピス月寒東ハウス
- ファミリー・ホスピス札幌南ハウス
- ファミリー・ホスピス北24条ハウス
- ファミリー・ホスピス東苗穂ハウス※

【宮城県】
- ファミリー・ホスピス南仙台ハウス
- ファミリー・ホスピス南中山ハウス※

【神奈川県】
- ファミリー・ホスピス鴨宮ハウス
- ファミリー・ホスピス本郷台ハウス
- ファミリー・ホスピス四之宮ハウス
- ファミリー・ホスピス東林間ハウス
- ファミリー・ホスピス茅ヶ崎ハウス
- ファミリー・ホスピス江田ハウス
- ファミリー・ホスピス大口ハウス
- ファミリー・ホスピス本牧ハウス
- ファミリー・ホスピス二俣川ハウス
- ファミリー・ホスピス港南台ハウス
- ファミリー・ホスピス鵠沼ハウス
- ファミリー・ホスピスセンター南ハウス
- ファミリー・ホスピスたまプラーザハウス
- ファミリー・ホスピスさがみ野ハウス
- ファミリー・ホスピス日吉本町ハウス

【東京都】
- ファミリー・ホスピスライブクロス
- ファミリー・ホスピス成瀬ハウス
- ファミリー・ホスピス池上ハウス
- ファミリー・ホスピス二子玉川ハウス
- ファミリー・ホスピス成城ハウス
- ファミリー・ホスピス荒川ハウス
- ファミリー・ホスピス代田橋ハウス
- ファミリー・ホスピス西台ハウス
- ファミリー・ホスピス高井戸ハウス
- ファミリー・ホスピス大泉学園ハウス
- ファミリー・ホスピス片倉ハウス
- ファミリー・ホスピス松庵ハウス
- ファミリー・ホスピス西新井ハウス
- ファミリー・ホスピス国立ハウス
- ファミリー・ホスピス堀之内ハウス
- ファミリー・ホスピス西葛西ハウス
- ファミリー・ホスピス上石神井ハウス

【千葉県】
- ファミリー・ホスピス東千葉ハウス
- ファミリー・ホスピス鎌ヶ谷ハウス
- ファミリー・ホスピス新柏ハウス
- ファミリー・ホスピス船橋ハウス
- ファミリー・ホスピス勝田台ハウス

【埼玉県】
- ファミリー・ホスピス大宮ハウス
- ファミリー・ホスピス富士見ハウス
- ファミリー・ホスピス七里ハウス
- ファミリー・ホスピス蓮田ハウス※

【愛知県】
- ファミリー・ホスピスOASIS千種
- ファミリー・ホスピスOASIS徳川
- ファミリー・ホスピスOASIS南
- ファミリー・ホスピスOASIS北
- ファミリー・ホスピスOASIS志賀公園
- ファミリー・ホスピスOASIS知立
- ファミリー・ホスピスOASIS藤が丘
- ファミリー・ホスピスOASIS天白野並
- ファミリー・ホスピスOASIS金山
- ファミリー・ホスピスOASIS桜山
- ファミリー・ホスピス豊明ハウス※
- ファミリー・ホスピス豊橋ハウス※

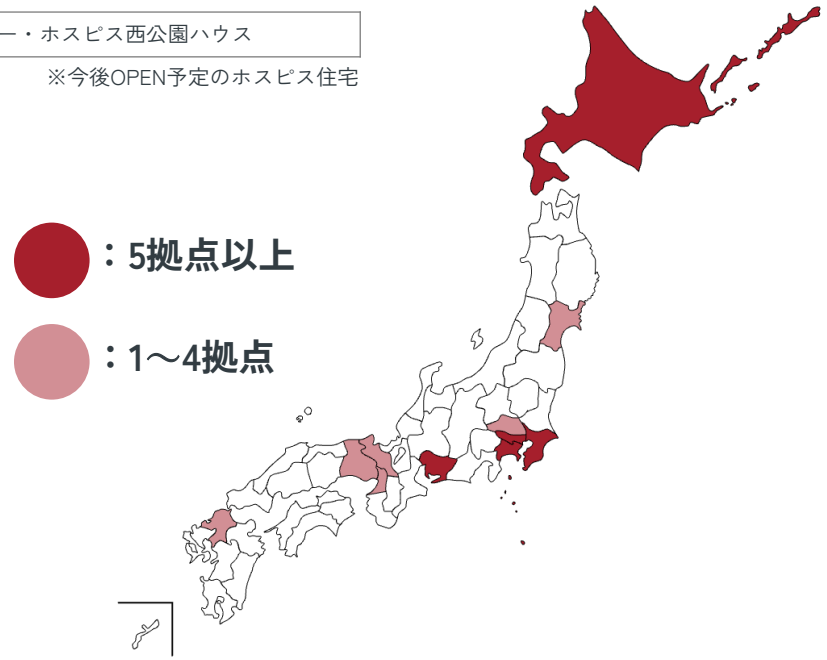
【京都府】
- ファミリー・ホスピス京都北山ハウス

【大阪府】
- ファミリー・ホスピス平野ハウス
- ファミリー・ホスピス豊中ハウス

【兵庫県】
- ファミリー・ホスピス神戸垂水ハウス
- ファミリー・ホスピス神戸東灘ハウス

【福岡県】
- ファミリー・ホスピス西公園ハウス

※今後OPEN予定のホスピス住宅



合計：69施設 2,386室

（2026年11月13日時点 OPEN予定を含む）

© Japan Hospice Holdings Inc. All rights reserved.

街がホスピスになる



住みなれた街
住みなれた家

大事な人と
親しい人たちと
そして、一人でも

全ての人が
人生の最期の時まで
安心して、楽しく
暮らせる社会

「街がホスピスになる」

当社の描く未来です

© Japan Hospice Holdings Inc. All rights reserved.

本資料に記載されている計画や見通し、戦略などは本資料作成時点において取得可能な情報に基づく将来の業績に関する見通しであり、これらにはリスクや不確実性が内在しております。かかるリスク及び不確実性により、実際の業績等はこれらの見通しや予想とは異なる結果となる可能性があります。

また、本資料に含まれる当社以外に関する情報は、公開情報等から引用したものであり、かかる情報の正確性、適切性等について当社は何らの検証も行っておらず、またこれを保証するものではありません。

＜お問い合わせ先＞
日本ホスピスホールディングス株式会社

電　話　：03-6368-4154
メール　：ir@jhospice.co.jp

© Japan Hospice Holdings Inc. All rights reserved.